

# Hyoutan Jima

## ひょうたん島川の駅ネットワーク構想

人

ひょうたん島  
街 川

(案)



平成 26 年 6 月  
徳 島 市

# River Station

1.	背景と目的	P. 1
2.	川の駅の候補地について	P. 2
3.	川の駅の基本方針およびコンセプト	P. 3
4.	川の駅の機能について	P. 4
5.	船の運航について	P. 7
6.	川の駅ネットワーク活動推進について	P. 8
7.	シンボルエリアについて	P.14

## 1.1 背景

徳島市は、吉野川をはじめとした大小 138 本もの河川が流れる水が豊かな都市であり、江戸時代には、染料である藍の生産により全国有数の商業地として栄え、都市圏への出荷や物資の運搬などに、川を生かした舟運が利用されていたという歴史を持つ。

市内の中心部に位置する新町川と助任川に囲まれたエリアは、「ひょうたん島」の愛称で市民らに親しまれ、水都とくしまを象徴する本市の貴重な地域資源のひとつとなっている。

このように水を身近に感じ水とともに暮らしてきた本市は、水を生かしたまちづくりを基本に、昭和 61 年に着手した新町川水際公園整備事業にはじまり、平成 4 年に策定した「ひょうたん島水と緑のネットワーク構想」などに基づき、約 20 年以上にわたって県などとともに、親水公園やボードウォーク、遊歩道の整備をはじめ護岸の修景などに取り組んできた。

一方、NPO 法人等の市民団体においても、ひょうたん島周遊船の運航やイベント開催など、水都ならではの事業を展開し、官民一体となって水を生かしたまちづくりを進めてきた。

こうした取り組みを一層発展させるために、平成 19 年度には、本市の将来像を「心おどる水都・とくしま」とした第 4 次徳島市総合計画を策定し、水の魅力を生かしながら、心がわくわくおどるようなまちづくりに取り組むこととした。

更に、平成 22 年度には、「心おどる水都・とくしま」発信プランを策定し、その中で「水都」をとくしまブランド確立のためのキーワードの一つとして定め、アクションプログラムの水都とくしま創造プロジェクトの主要事業の一つに「川の駅のネットワーク整備」を位置付けた。

現在、ひょうたん島周辺では、行政だけでなく様々な市民団体などが水辺を拠点として活動しており、市民においても親しみやすい水辺空間となっていることから、水を生かした水都とくしま固有の文化が醸成されつつある。

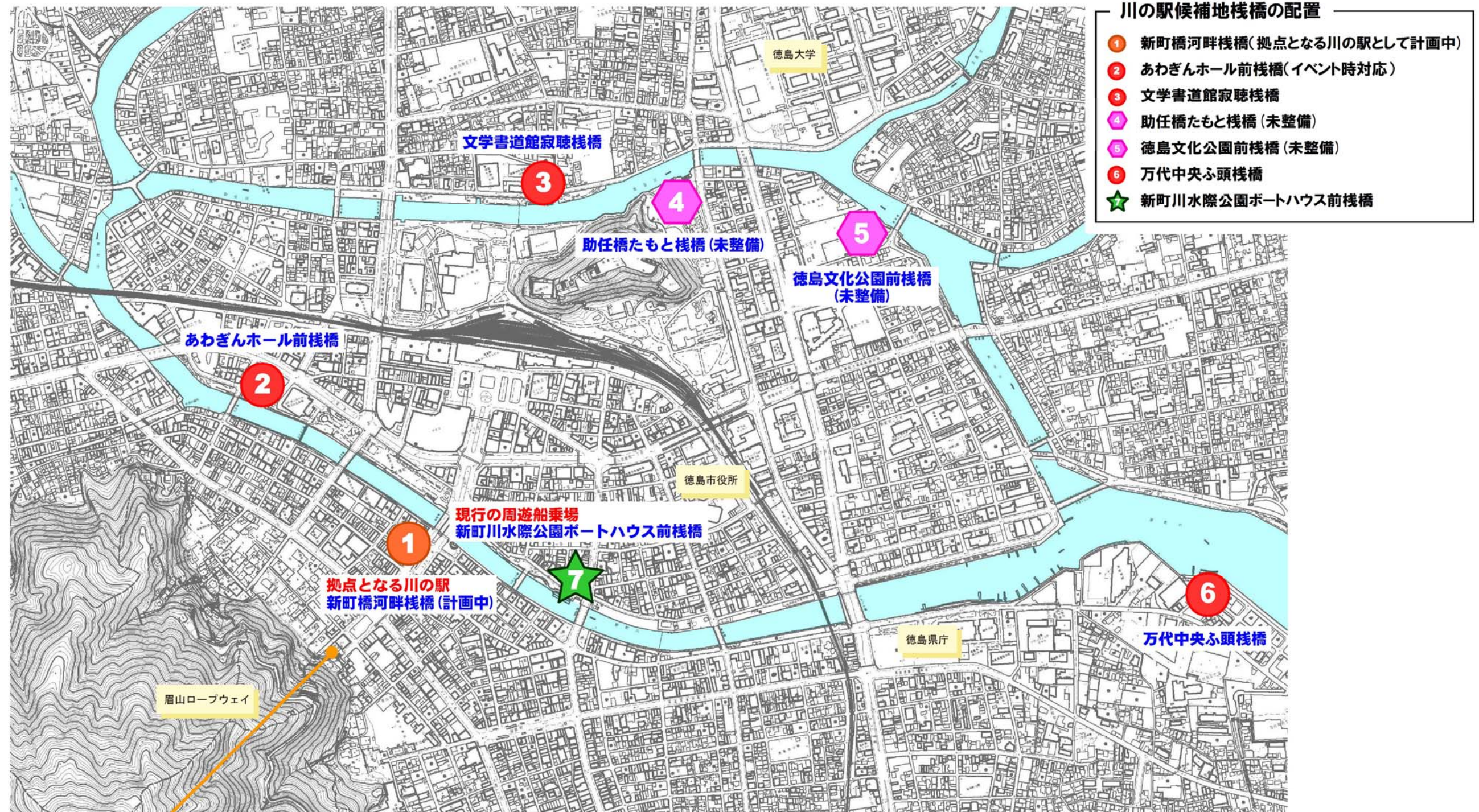
## 1.2 目的

ひょうたん島川の駅ネットワーク推進事業は、ひょうたん島を中心とした水を生かしたまちづくりに寄与するため、新町川や助任川などひょうたん島をとりまく一周約 6km の川に船が着き、人が乗り降りすることができる棧橋などの機能を持った「川の駅」を整備し、ネットワーク化を図ることにより、現在、活動を展開している団体などを含む多くの市民や来訪者に、水都とくしまの魅力の再発見や手軽な移動手段として、また、川の駅周辺を憩いの場・交流の場として活用してもらうことで、新たな人の流れを生み出し、にぎわいの面的な広がりを目指すものである。

また、新町西地区市街地再開発事業の中で、新町橋河畔に拠点となる川の駅として棧橋及び駅舎を整備することで、水都とくしまを実感できる、シンボルエリアの魅力向上を図ることとする。

## 2. 川の駅の候補地について

本構想においては、次の7か所を候補地として選定し、それぞれを船で結ぶネットワークの拠点として位置付けるものとする。  
川の駅の配置図を次に示す。



\*この地図は、徳島市長の承認を得て、1/2,500地形図を複製したものである。(承認番号 徳島市指令都政第10号)

県庁前棧橋の整備については、今後の川の駅の利用状況等を見極めながら、将来的な検討課題とする。

2か所の未整備棧橋における整備の優先順位は、助任橋たもと棧橋、徳島文化公園前棧橋の順とする。ただし、助任橋たもと棧橋については、国の史跡指定区域内であるため文化庁との事前協議を行っているが、協議結果によっては優先順位等の見直しをするものとする。

## 3. 川の駅の基本方針およびコンセプト

### 3.1 川の駅の基本方針

ひょうたん島川の駅ネットワークの基本方針は次のとおりとする。

市民活動団体等を中心とした活動展開のもとで、川とその後背地を生かしたまちづくりを行う拠点として整備する。【川まちづくりの拠点】

市民の日常生活に根付き、来訪者の興味を高めるとくしまの新たな風物詩として展開できる場を実現する。【とくしまの新たな風物詩】

市民や来訪者が、まち歩きを楽しむことができる、徳島ならではの川を生かした手軽な移動手段としての拠点づくりを行う。【手軽な移動手段の拠点】

### 3.2 川の駅の個別コンセプト

ひょうたん島川の駅における後背地を考慮した個別コンセプトは次のとおりとする。

#### ① 新町橋河畔棧橋・・・【心おどる文化体験と人々が出会い交流できるおしゃれな都市空間】

新町西地区再開発事業の中で計画を進めている新町橋河畔棧橋と川の駅舎は、JR 徳島駅と眉山を結ぶシンボルゾーン内にあるメインストリートと新町川が交わる部分に位置し、新たな川を生かしたまちづくりの拠点、新たな水都とくしまのシンボルエリアとして、ひょうたん島川の駅ネットワークの拠点施設とする。

新ホールを中心として開催される公演や文化芸術活動、商業施設や周辺商店街などでの買い物、各種イベントが楽しめることから、交通の利便性を生かし、新たなにぎわいを創出し、にぎわいの面的な広がりを目指すとともに、人々が出会い交流できるおしゃれな都市空間としての活用を図る。

#### ② あわぎんホール前棧橋・・・【イベントや文化活動を楽しむにぎわい空間】

かつては藍蔵が立ち並んでいたこのエリアは、藍蔵を模した護岸や快適な遊歩道が整備されている。ホールや周辺の公園などで開催される多彩なイベントや文化活動等を楽しむことができるにぎわい空間としての活用を図る。

#### ③ 文学書道館寂聴棧橋・・・【文化・水・四季折々の緑が楽しめる癒し空間】

徳島の文化を創造・発信する文学書道館における生涯学習・文化活動とともに、地元住民が日常的に利用している助任川河岸緑地と、向かい側の徳島中央公園の木々の新緑や紅葉など、文化・水・緑が融合した癒しの空間としての活用を図る。

#### ④ 助任橋たもと棧橋・・・【阿波の歴史と自然を満喫する憩いの空間】

阿波の中心地であった徳島藩 25 万石の城跡に広がる徳島中央公園には、当時の様子を垣間見ることができる徳島城博物館と旧徳島城表御殿庭園がある。また、都市の中心でありながら貴重な原生林が残る城山の自然を感じられる場所として、歴史的なエリアの川からの玄関口として、歴史に思いをはせる憩いの空間としての活用を図る。

#### ⑤ 徳島文化公園前棧橋・・・【歴史と出会い心落ち着く親水空間】

歴史をしのばせる藩政の松並木が立ち並び、その緑と川が調和し静かで落ち着きのある美しい景観を醸し出している。また、近くには川に降りることができる場所もあり、他の川の駅とは少し趣きが異なる落ち着きのある親水空間としての活用を図る。また、川の駅の後背地として広大な旧動物園跡地があることが大きな特徴であり、早期の有効活用が期待されている。

#### ⑥ 万代中央ふ頭棧橋・・・【港景観を楽しみ人が集うにぎわい空間】

かつては徳島を代表する物流拠点の港として栄えた万代倉庫群に位置し、外洋とひょうたん島の結節点としてヨットや大型船などが通る、他の川の駅では見ることができない港独特の雰囲気を楽しむことができる。市民団体等が行うイベントも人気を集めていることから、人が集うにぎわい空間としての活用を図る。

#### ★ 新町川水際公園ボートハウス前棧橋・・・【人々が集う船だまりのある水と光のアート空間】

ひょうたん島を代表するスポットであり、にぎわいのあるリバーフロントゾーンとして、シンボリックな場所となっている。NPO法人新町川を守る会の拠点であり、周遊船などの船だまりという光景に加えて、市民が集える施設を有することから人々が集まるイベントが頻繁に開催されている。新たにLEDという魅力を加えた光の空間が広がっており、水と光のアート空間としての活用を図る。

## 4. 川の駅の機能について

### 4.1 川の駅の棧橋について

新町橋河畔棧橋（新町西地区市街地再開発事業の中で整備予定）

新町西地区市街地再開発事業の中で、拠点となる川の駅として棧橋および川の駅舎の整備を行う。



「拠点となる川の駅」の船着き場イメージ図（新町西地区市街地再開発事業資料から）

文学書道館寂聴棧橋（既存棧橋の有効活用）

既存の棧橋を有効活用する。



文学書道館寂聴棧橋の様子

あわぎんホール前棧橋（イベント時対応）

藍場浜公園などで開催されるイベント時に主催者などで協議し川の駅として活用する。



あわぎんホール前棧橋の様子

助任橋たもと棧橋（新規棧橋の整備）

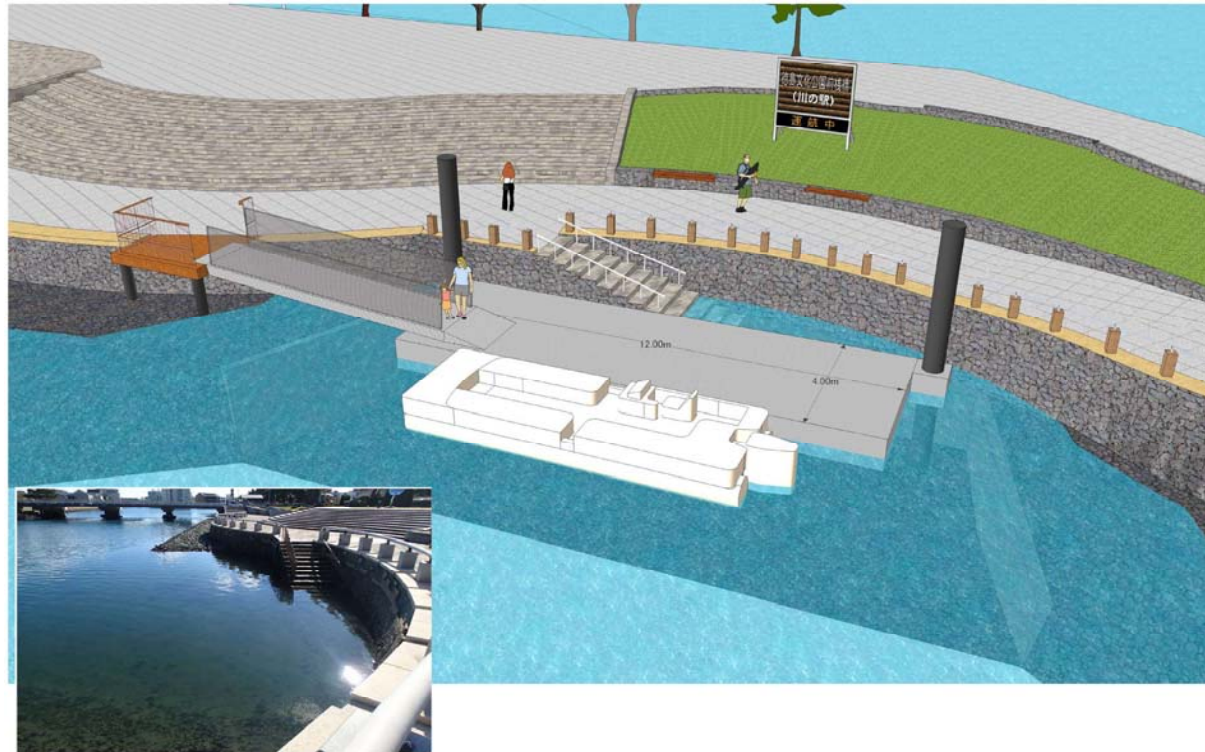
市民構想会議において検討を行った基本構想図を基に、早期の整備を目指す。



助任橋たもと棧橋のイメージ図

徳島文化公園前棧橋（将来的に新棧橋を検討）

市民構想会議において検討を行った基本構想図を基に、整備を検討する。



徳島文化公園前棧橋のイメージ図

新町川水際公園ボートハウス前棧橋（既存棧橋の有効活用）

NPO法人新町川を守る会の拠点である既存の棧橋を生かしながら、人々が出会い集まるイベントスペースとしての比重を高めていく。



万代中央ふ頭棧橋（既存棧橋の有効活用）

既存の棧橋を有効活用するとともに、周辺活動団体の利活用状況に応じて、施設管理者等と連携・協力のもと、施設の充実を検討する。



万代中央ふ頭棧橋の将来イメージ図（NPO法人アクア・チッタ作成）



新町川水際公園ボートハウス前棧橋の様子

## 4.2 川の駅舎等について

川の駅は、市民活動団体等を中心とした活動展開により、川とその後背地を生かしたまちづくりの拠点として整備する方針であることから、川の駅舎は重要な役割を担う施設となることが考えられる。そこで、新町橋河畔棧橋にひょうたん島川の駅ネットワークの拠点となる川の駅舎、また、助任橋たもと棧橋または徳島文化公園前棧橋のいずれかに、市民活動団体等が活動できるひょうたん島川の駅の北の拠点となる川の駅舎の整備を目指すものとする。

このうち、新町橋河畔棧橋の拠点となる川の駅舎については、新町西地区市街地再開発事業の中で整備することとし、助任橋たもと棧橋または徳島文化公園前棧橋については、新町橋河畔棧橋川の駅舎の利用状況や利用者の意見等を十分検証したうえで関係機関との協議結果を踏まえ、いずれかの整備を目指す。前記以外の川の駅については、利用状況や利用者の声等を検証しながら施設の在り方や充実を検討していくものとする。

### 新町橋河畔棧橋の拠点となる川の駅舎

新町西地区市街地再開発事業と連携した施設配置として、市民構想会議において出された意見を同再開発事業に提案するものとする。

表1 新町橋河畔棧橋の川の駅舎イメージ

施設の条件	
<p>「<b>心おどる文化体験と人々が出会い交流できるおしゃれな都市空間</b>」を目指し、新たな川を生かしたまちづくりの拠点、新たな水都とくしまのシンボルエリアとして、ひょうたん島川の駅ネットワークの拠点として整備する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>施設の広さについては20坪程度を目安とする</li> <li>設置場所は川や棧橋が見える場所とする</li> <li>周遊船乗船客の待合スペースのほか、市民団体の活動スペース・イベントスペースを確保する</li> <li>トイレについては商業施設内の施設を活用する</li> </ul>	
想定される利用目的	
中心市街地への川側からの出入口 周遊船等の発着拠点 川に関する情報提供 川に関する団体の連携	
施設の機能	必要な備品など
案内機能	受付・案内カウンター、運航状況表示板、潮位表、駅長室（机、イス） 周遊船の案内図（現在、周遊している周遊船の位置を随時表示する設備等）
待合機能	自動販売機、利用者用（机、イス）
情報提供機能	運航状況等を示す電光掲示板、パンフレット設置棚
活動機能	掲示板、展示パネル、学習体験コーナー（机、イス）など 団体活動やイベントで使用しない場合は、そのスペースは待合スペースとして開放する。

### 助任川側に整備を目指す川の駅舎

助任川側に整備を目指す川の駅舎については、新町橋河畔棧橋に整備する拠点となる川の駅舎の利活用状況や利用者の意見等を十分検証するとともに関係機関との協議結果を踏まえ、次の2案中から1箇所を選定し、北の拠点となる川の駅舎としての整備を目指すものとする。

表2 助任橋たもと棧橋の川の駅舎イメージ（案1）

施設の条件	
<p>「<b>阿波の歴史と自然を満喫する憩いの空間</b>」を目指し、阿波の歴史・文化が息づく名所と原生林が残る自然があふれる助任川からの玄関口として、歴史に思いをはせる憩いの空間として整備する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>施設は周辺の景観および歴史的文化遺産に配慮し、県産材を使用した木造建とする</li> <li>市民が気軽に集まれて活動できるスペースを確保する</li> <li>子供が阿波や川の歴史、自然などを学習できるコーナーを設置する</li> <li>駅長室、待合・休憩スペース、飲食コーナーなど</li> </ul>	
想定される利用目的	
歴史的文化遺産等を活用した歴史や環境などの学習 中央公園の豊かな自然や川を生かしたオリエンテーリング、ネイチャーゲーム、川遊びなど	
施設の機能	必要な備品など
案内機能	受付・案内カウンター、運航状況表示板、潮位表 周遊船の案内図（現在、周遊している周遊船の位置を随時表示する設備等）
待合機能	自動販売機、利用者用（机、イス）
情報提供機能	運航状況等を示す電光掲示板、パンフレット設置棚
活動機能	掲示板、展示パネル、学習体験コーナー（机、イス） 活動備品収納庫、水道施設、電気設備、救助用備品など

表3 徳島文化公園前棧橋の川の駅舎イメージ（案2）

施設の条件	
<p>「<b>歴史と出会い心落ち着く親水空間</b>」を目指し、川遊びや川を身近に体験できる施設であるとともに、後背地の旧動物園跡地を生かすことを想定し整備する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>静かで落ち着きのある親水空間の玄関として、施設は周辺の松並木などの景観・歴史に配慮し、県産材を使用した木造建とする</li> <li>市民が気軽に集まれて活動できるスペースを確保する</li> <li>子供が川や歴史に関する学習や川遊びなどを体験できるコーナーを設置する</li> <li>駅長室、待合・休憩スペース、飲食コーナー、トイレ、シャワーなどを施設内に設置する</li> </ul>	
想定される利用目的	
川遊び、カヌー等の体験活動、川や歴史、環境等の学習 後背地を活用した大型イベントの開催	
施設の機能	必要な備品など
案内機能	受付・案内カウンター、運航状況表示板、潮位表、駅長室（机、イス） 周遊船の案内図（現在、周遊している周遊船の位置を随時表示する設備等）
待合機能	自動販売機、利用者用（机、イス）
情報提供機能	運航状況等を示す電光掲示板、パンフレット設置棚
活動機能	掲示板、展示パネル、学習体験コーナー（机、イス） 体験活動用備品、活動備品収納庫、水道施設、電気設備、救助用備品など

## 5. 船の運航について

### 5.1 川の駅を結ぶ船の運航

現在、NPO法人新町川を守る会により、周遊船のボランティア運航が行われており、川の駅のネットワーク整備後においても、同会が主体的な運航を行い、その活動を市が支援していく。

川の駅の整備後は、新町橋河畔棧橋を船の発着拠点として、当面は、次の船の運航形態（方針）に基づいて運航する。

表4 ひょうたん島周遊船運航形態

### ひょうたん島周遊船運航形態

運航主体：NPO 法人 新町川を守る会

運航日：NPO法人新町川を守る会の周遊船の現行運航に準ずる  
→ 元旦は運休とするが、それ以外は通常運航を行う  
但し、悪天候の場合及び警報発令時は、欠航とする

運航時間：NPO法人新町川を守る会の周遊船の運航時間とする  
(午前 11:00～午後 3:40)⇒7・8・9 月は 17:00～運航  
→ 但し、潮の干満等の影響により、時間やルートの変更を行う場合がある

その他：始発の川の駅においては、あらかじめ出航時間を決めておき、運航時に適宜船を止めて乗下船する  
なお、周遊船の運航状況が手軽に確認できる仕組みを検討する  
但し、イベント時においては、適宜イベント主催者と運航日程び運航方法等を調整する

所要時間：約 35 分

### 5.2 ひょうたん島周辺とそれ以外の航路との関係

現在、NPO法人新町川を守る会の周遊船は、ひょうたん島周辺以外に、撫養航路やイベント時の臨時ルートでも運航を行っている。これらについては、既存の周遊ルートとの併用により、手軽な移動手段だけでなく、川からの風景を楽しむことで、川の駅存在価値を高めるとともに、川の魅力や川の駅そのものの魅力を発見する可能性があることから、本格導入や連携の可能性を探るものとする。

また、ひょうたん島周辺を拠点として運航する団体等の参入についても、調整を行っていくものとする。

船の運航形態および川の駅候補地については、平成 28 年度から新規整備した棧橋を含めた実証運航を目指すこととし、その中で、利用者や市民の意見を十分に反映させながら本格的な体制を構築していくものとする。



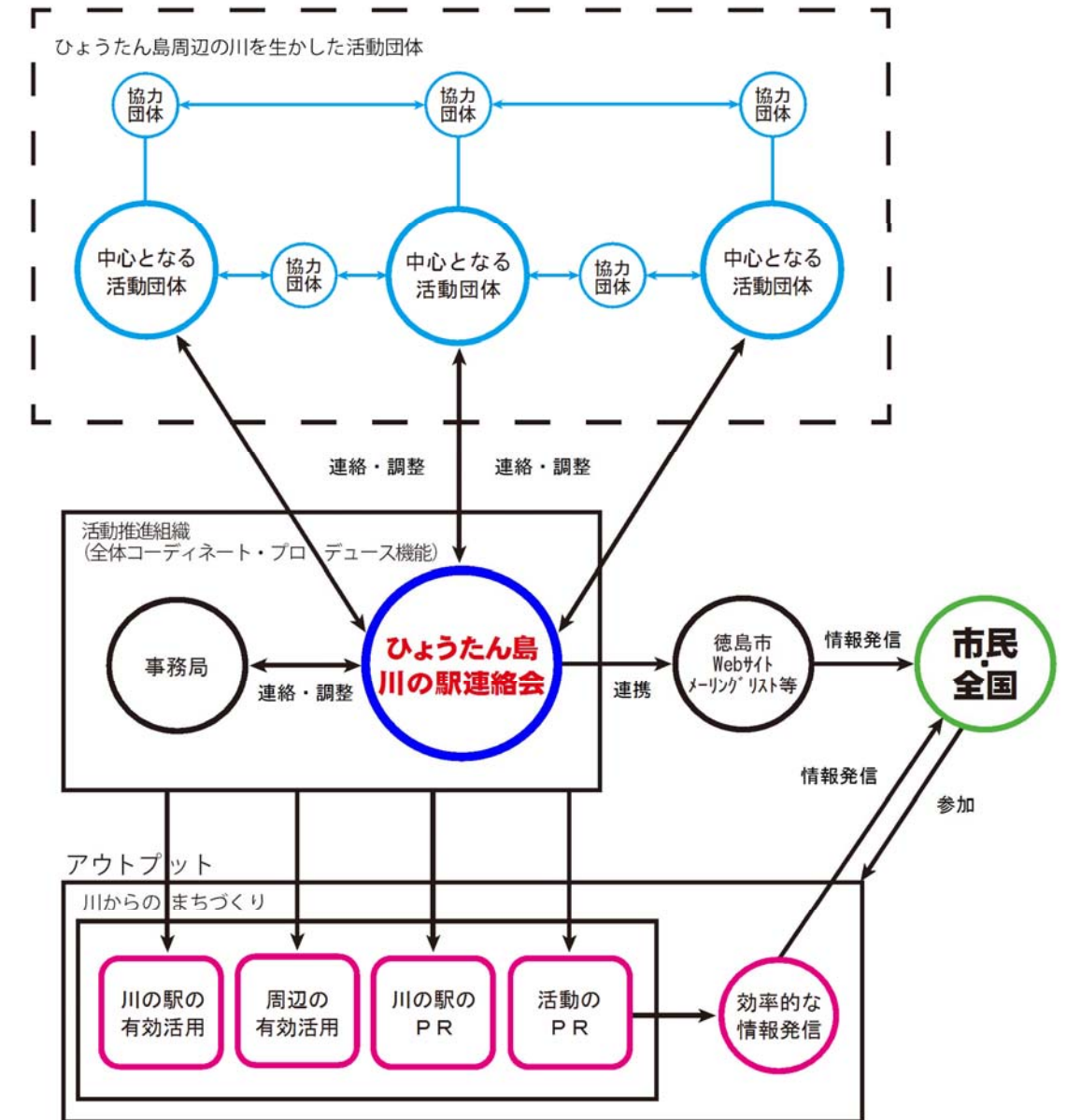
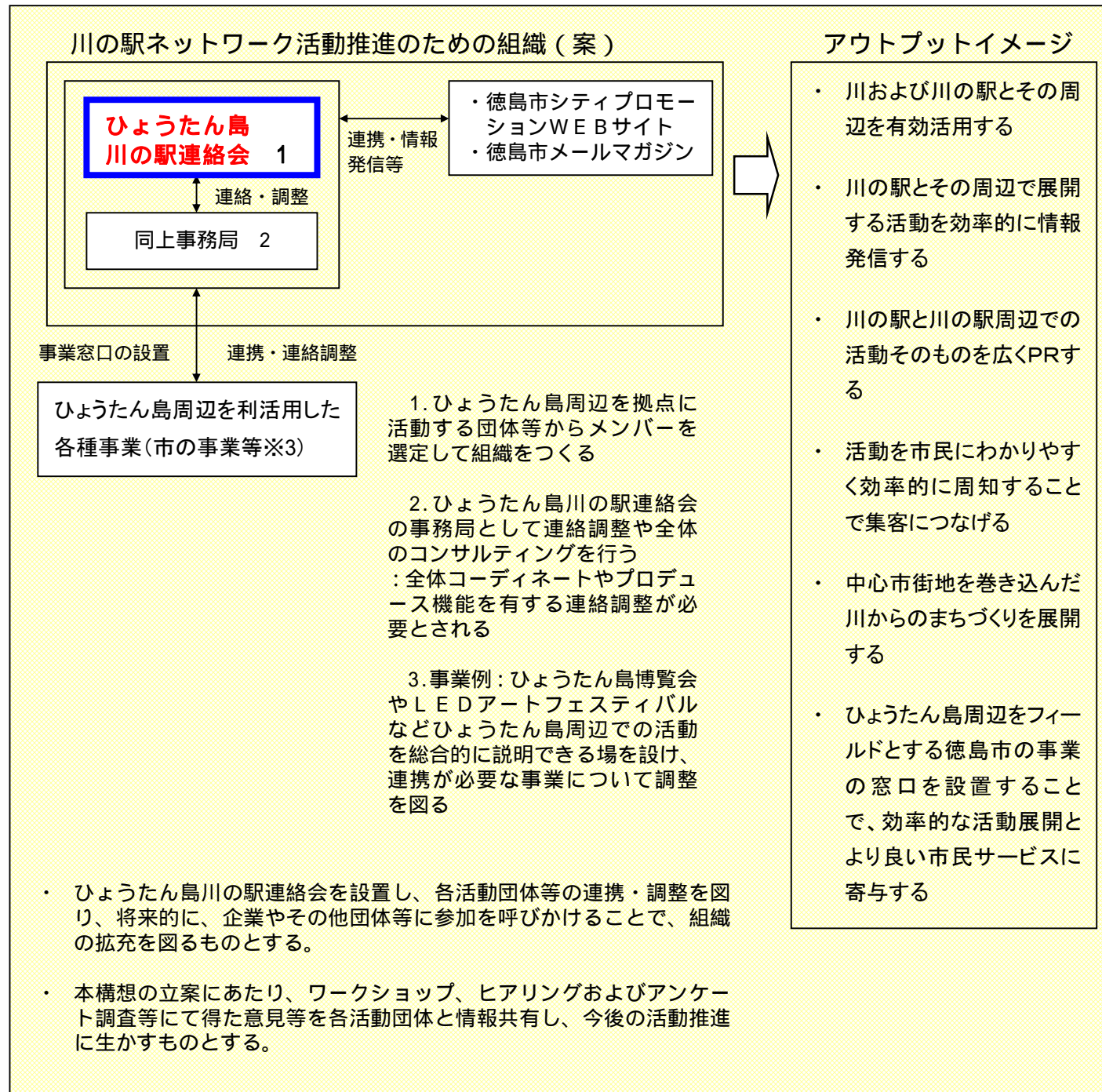
## 6.川の駅ネットワーク活動推進について

### 6.1 川の駅ネットワーク活動推進のための組織づくり

今後、川の駅ネットワークの活動を円滑に推進するためには、川の駅周辺で活動する関係団体等との間で情報交換や連絡調整を密に行う必要があり、そのための組織づくりと場づくりが必要となる。

川の駅ネットワーク活動推進のための組織の設立を目指す。

表5 組織図



川の駅ネットワーク活動推進の模式図

## 6.2 川の駅およびその周辺の利活用（案）

川の駅およびその周辺の利活用（案）として、次の4つに分けて検討を行った。

### 1. 既存プロムナード等（ひょうたん島全域）・・・P.10

### 2. エリア(A)・・・P.11

#### 新町・両国エリア

（新町橋河畔棧橋・あわぎんホール前棧橋・新町川水際公園ボートハウス前棧橋）

### 3. エリア(B)・・・P.12

#### 助任周辺エリア

（文学書道館寂聴棧橋・助任橋たもと棧橋・徳島文化公園前棧橋）

### 4. エリア(C)・・・P.13

#### 万代町周辺エリア（万代中央ふ頭棧橋）

それぞれの利活用（案）を次頁より示す。



6.4 エリア(A) (新町橋河畔棧橋・あわぎんホール前棧橋・新町川水際公園ボートハウス前棧橋)の利活用(案)

① 新町橋河畔棧橋

【心おどる文化体験と人々が出会い  
交流できるおしゃれな都市空間】

新町西地区市街地再開発事業の中で、新ホールや商業施設等の整備と一体となった川の駅整備に取り組んでいる(計画中)。

周辺には、市立図書館、阿波おどり会館や眉山ロープウェイ、親水公園や遊歩道などの公共施設などが整備されている。また、眉山の自然や寺町界隈に見られる懐かしい落ち着いた街並みなどが広がり、まち歩きが楽しめる。

休日や季節ごとには、周辺の公園などで様々なイベントが開催されているほか、本市最大のイベントである阿波おどりは、会場の中心に位置し、多くの人でにぎわいを見せている。

川の駅を活用し、まちなかでいられる各種イベント、公共施設や商業施設などに船を使って来ることができるなど、様々な既存の地域資源と連携した取り組みが可能であるとともに、カヌーやカヤックによる水とふれあう活動などによって、川とともに暮らす市民のライフスタイルなど、徳島独自の文化の醸成をより一層図ることができる。

また、整備を予定している拠点となる川の駅舎では、川をテーマに活動をしている団体が運営をすることにより、川を知り川を身近に感じるにつなげることが期待できる。

② あわぎんホール前棧橋

【イベントや文化活動を楽しむにぎわい空間】

あわぎんホールや藍場浜公園に近く、そこで開催されるイベント時などの利用に適しているほか、新町橋河畔棧橋と同様に、寺町界隈や眉山とも近いことから、街並みや眉山散策に利用することができる。

また、新ホールとあわぎんホールが川の駅(船)で結ばれることから、両ホールの連携イベントでの活用も想定できるなど、イベントや文化活動等を楽しむにぎわい空間として活用できる。

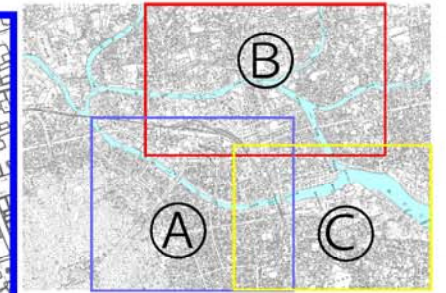
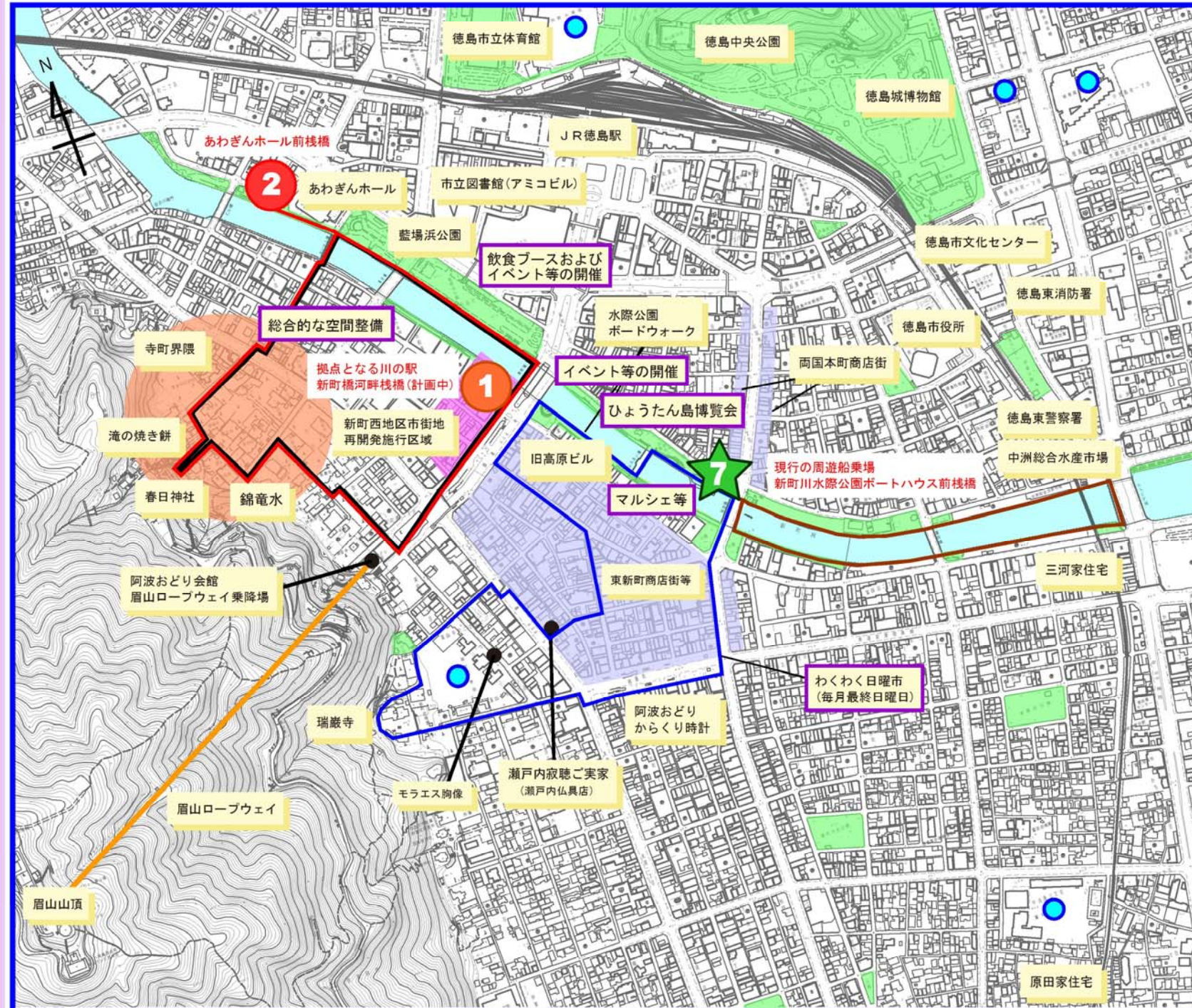
⑦ 新町川水際公園ボートハウス前棧橋

【人々が集う船だまりのある  
水と光のアート空間】

水都とくしまの象徴的な場所であり、水際公園やボードウォークといった徳島ならではの空間を有し、NPO法人新町川を守る会の活動拠点として、本市の地域資源となっているひょうたん島周遊船の運航が行われている。

また、水際公園とボードウォークに架かる3本の橋には、LEDアート作品やLEDによる装飾が施されるなど、アートが感じられる空間であるとともに、これらの場所は、多くのイベントなどでも利用され、今や市民や来訪者でにぎわう公園の一つとなっている。

このほか、水際公園では他では規制されている河川区域での飲食物の提供ができることや、周辺には商店街や歓楽街があり、川から来て買い物や飲食、周辺のまち歩きなど盛りだくさん楽しめる場所となっており、新町橋河畔棧橋との役割分担を図ることで、相乗的に面的なにぎわいの創出が図れる。



- 川の駅候補地凡例
- ★ 新町川水際公園ボートハウス前棧橋
  - ① 拠点となる川の駅
  - ② 新町橋河畔棧橋(計画中)
  - ⑦ あわぎんホール前棧橋

- 凡例
- ウォーキングコース 1.7km
  - ウォーキングコース 1.8km
  - ウォーキングコース 2.3km
  - ウォーキングコース 1.6km
  - 眉山ロープウェイ
  - 利活用の例
  - 主な施設
  - 学校
  - 商店街
  - 新町西地区市街地再開発施行区域
  - 公園

\*この地図は、徳島市長の承認を得て、1/2,500地形図を複製したものである。(承認番号 徳島市指令都政第10号)

6.5 エリア(B) (文学書道館寂聴棧橋・助任橋たもと棧橋・徳島文化公園前棧橋)の利活用(案)

③ 文学書道館寂聴棧橋

【文化・水・四季折々の緑が楽しめる癒し空間】

隣接の助任川河岸緑地は、地元住民や近隣の小中学生に親しまれ、散歩やスポーツに利用されているとともに対岸には中央公園の木々が茂り、広々とした自然を感じる空間が広がる癒しの場所であり、日常生活における利用が多い。

同所は、人と水の距離が最も近い公園であり、水に親しむ川遊びの利用が想定できる。

また、近くには文学書道館や興源寺の蜂須賀家墓所、とくしま七福神の一つである明王寺などがあり、徳島の歴史・文化にふれながら周辺を散策することができるほか、近くに結婚式場が2か所あり、これらと連携した利活用も考えられる。

④ 助任橋たもと棧橋(未整備)

【阿波の歴史と自然を満喫する憩いの空間】

中央公園には国指定の徳島城跡のほか、徳島博物館や旧徳島城表御殿庭園などがあり、阿波の歴史を身近に感じることができる空間であるとともに、歴史や伝統文化に関するイベントも多く開催され、歴史を学び体験できる場が多くある。

また、同公園は、城山の貴重な原生林や貝塚が残されており、古代の息吹を感じることができ、春は花見の名所として多くの市民が訪れる憩いの場所ともなっている。

そのほか、近くには大学や専門学校があり学生が多いことから、これらとの連携を図ることにより、新たな特色ある取り組みを目指す。

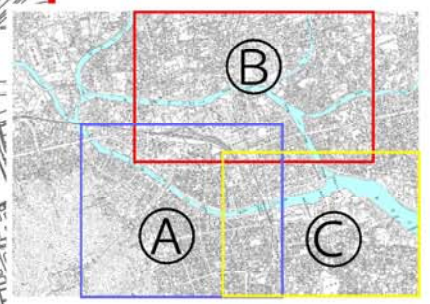
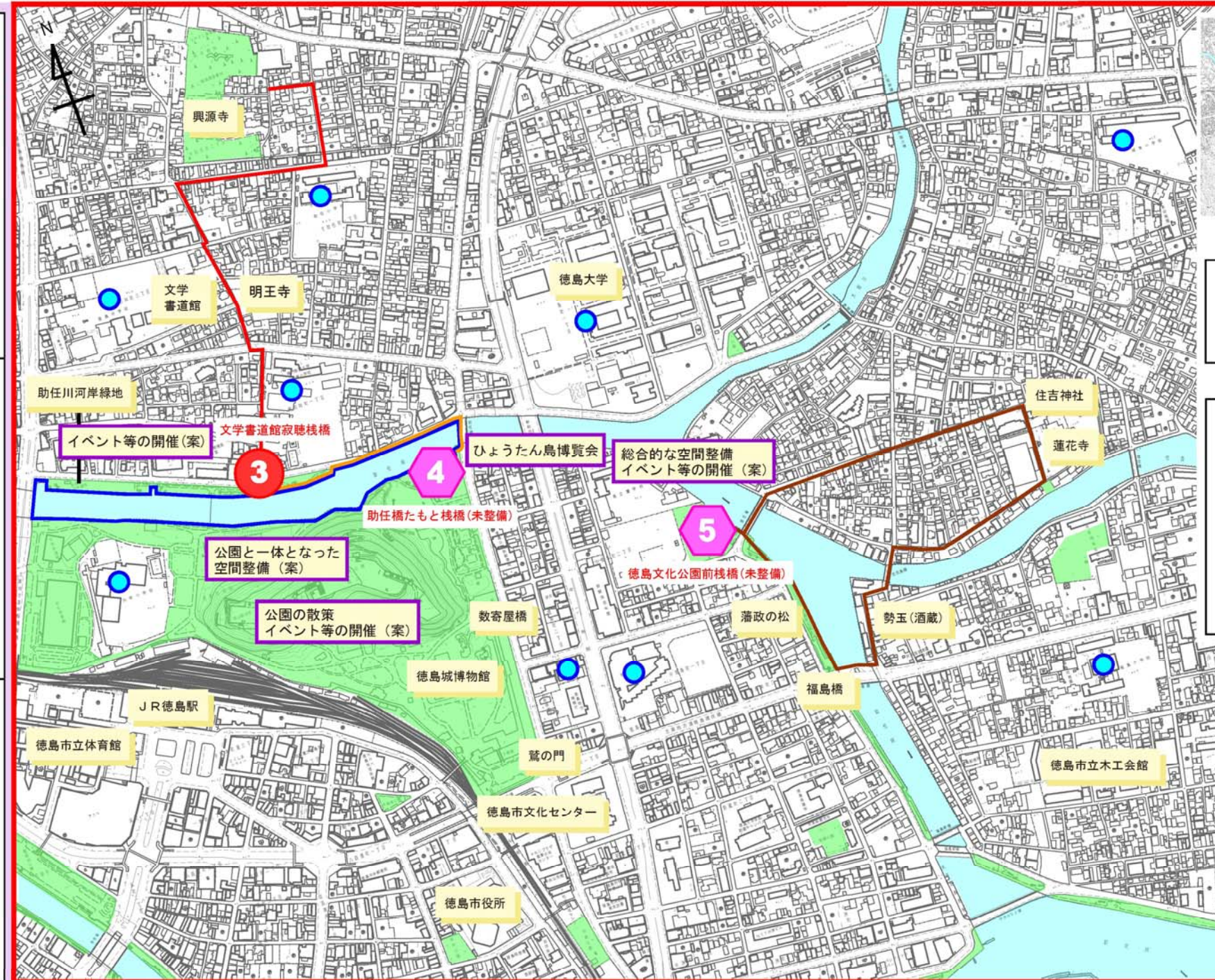
⑤ 徳島文化公園前棧橋(未整備)

【歴史と出会い心落ちつく親水空間】

藩政の松が川面に映る穏やかな空間があり、地元住民の散歩や憩いの場所となるなど日常の利用が多い。

イベントなどができるスペースがあり、ひょうたん島博覧会でもカヤックの出艇場所に利用するなど、川の駅と連携した川遊びのイベントや、カヌー・カヤックなどを使った川に親しむための活動拠点となる可能性がある。

また、住吉神社、福島橋(伝説)、国の有形文化財に登録されている勢玉酒蔵などがあり、徳島の歴史が息づく名所を散策することができる。



- 川の駅候補地凡例
- ③ 文学書道館寂聴棧橋
  - ④ 助任橋たもと棧橋(未整備)
  - ⑤ 徳島文化公園前棧橋(未整備)

- 凡例
- 1.7km ウォーキングコース
  - 1.6km ウォーキングコース
  - 1.6km ウォーキングコース
  - 中央公園までのルート
  - 利活用の例
  - 主な施設
  - 学校
  - 公園

\*この地図は、徳島市長の承認を得て、1/2,500地形図を複製したものである。(承認番号 徳島市指令都政第10号)

6.6 エリア③（万代中央ふ頭棧橋）の利活用（案）

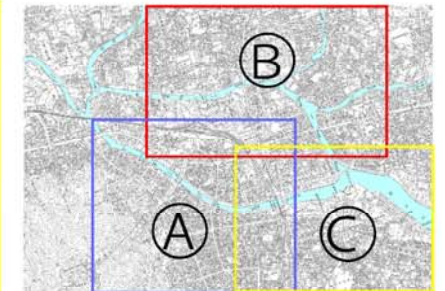
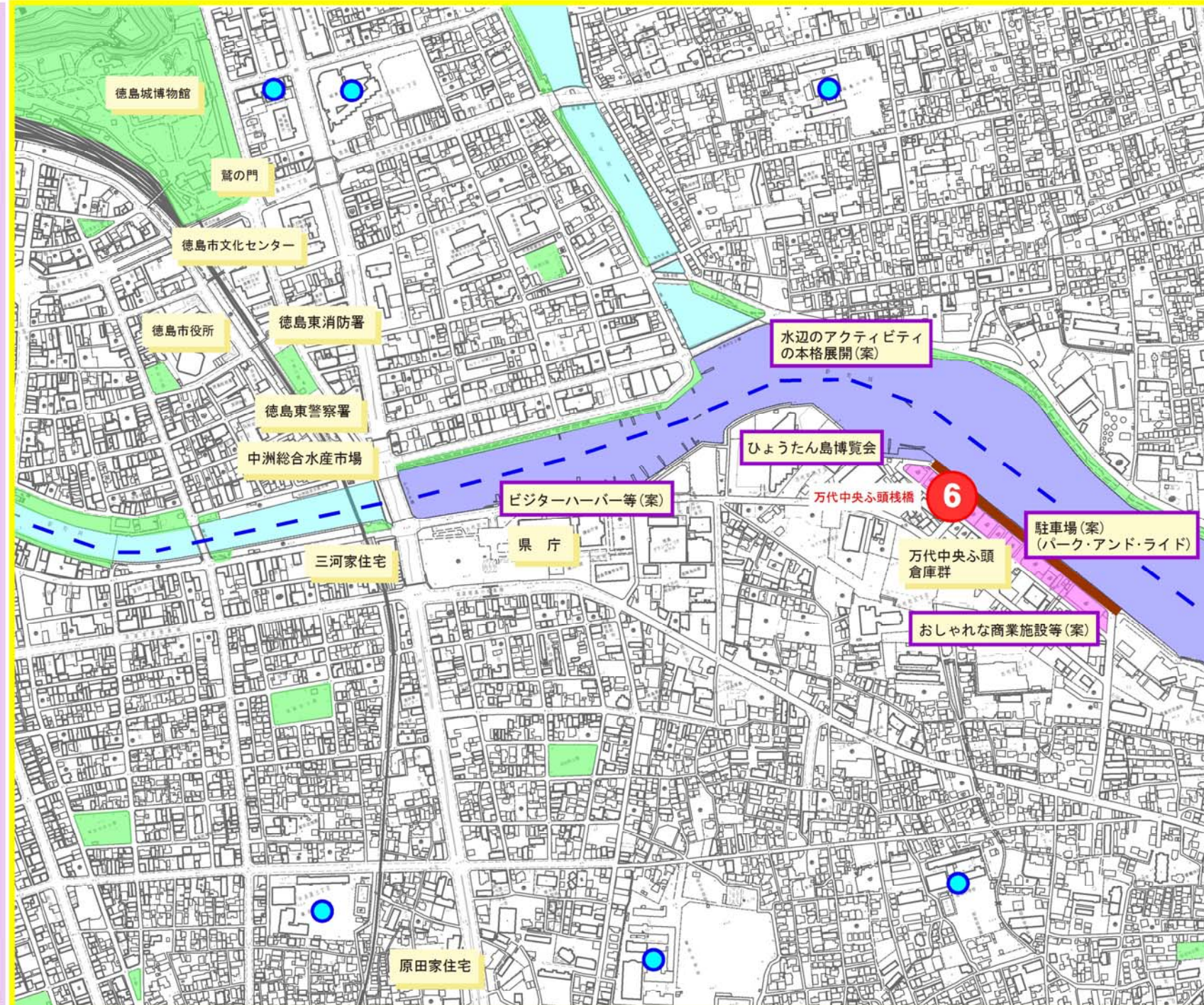
⑥ 万代中央ふ頭棧橋

【港景観を楽しみ人が集うにぎわい空間】

万代町の倉庫群に位置する棧橋で、現在、倉庫群の新たな用途に利活用する実証実験が行われているほか、NPO法人アクア・チッタ等によるイベントや水辺を生かした新たなまちづくりに取り組んでいる。

棧橋前では、水辺のアクティビティやイベントなどに活用できる空間を有しているとともに、ふ頭とケンチョピアが水辺の遊歩道でつながっており、連携した取り組みやヨットなど船で徳島を訪れる人の玄関口としても活用が期待できる。

また、ふ頭の駐車場を利用することで、船のパーク・アンド・ライドの拠点としても活用が考えられる。



川の駅候補地凡例

⑥ 万代中央ふ頭棧橋

凡例

- 利活用の例
- 主な施設
- 学校
- 万代中央ふ頭倉庫群
- 公園

至空港

船でホテル等への直行便(案)

\*この地図は、徳島市長の承認を得て、1/2,500地形図を複製したものである。(承認番号 徳島市指令都政第10号)

## 7. シンボルエリアについて

ひょうたん島川の駅ネットワーク構想推進の前提として、徳島市の中心市街地である新町橋～両国橋の周辺エリアをひょうたん島シンボルエリアとして設定し、その将来像についても検討を行った。イメージ図を次に示す。

新町橋方面から



両国橋方面から

